

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	姚 馨 【比較社会文化学専攻 平成20年度生】	要 旨
論文題目	An Investigation of Chinese University Students' Attitudes toward Plagiarism	<p>中国の大学生の間に多発する英語ライティングにおける盗用問題は世界中で多くの教育研究者の注目を集めている。その中で「文化の違い」理論は論点の一つになっている。本研究の主たる目的はこの理論を歴史や伝統的視点から考察しながら、現地や海外の英語教育者が当該問題を良く理解した上で、より合理的教育法や解決法を見つけ出すために、中国の大学の全体的な英語教育環境、特に盗用問題に関する現状を忠実に伝えることである。そのために、(1) 歴史的視点から見た中国のライティングの習慣や教え、(2) 中国の大学における英語教育（主に英作文の教授法に関する）の現状、(3) 中国大学生の盗用に対する知識や態度、の三つの角度から考察した。</p> <p>文献レビュー部分では、本研究は古代中国の試験制度、当時の主導的な作文スタイル、作文の書き方を習得するための伝統的教学方法、著作権に関する歴史文書や古代中国の作家はどのように出典を引用するかなどについて考察した。多くの欧米研究者の中国の文化的作文習慣に対する主流の考え方を批判的に補足する。</p> <p>また、本研究は英語教師を対象としたインタビューやカリキュラム、教材、レスンプランなどを要約し、中国の英語教育体制を明らかにした。その後、595名の中国大学生を対象とし、彼らの盗用に対する態度、知識や実際の経験についてアンケート調査を行った。中国大学生を対象としたアンケート調査を分析した結論、大多数の学生は盗用の経験がない、または殆ど無いと報告したが、彼ら自身は盗用を正しく判断できる知識を持っていない可能性も高い。現在中国の大学英語教育・試験制度や実際広く使われている「テンプレート」式の英作文教授法は、結果として中国大学生の盗用や著作権に関する知識の少なさやそれらに対する高い容認度に直結していると考えられる。</p> <p>結論部分では、本研究の不足点やそれらに基づいたさらなる研究のための課題を挙げ、中国大学生の間に多発する盗用問題について、中国国内及び海外大学の教育研究者に向けて、問題の理解と、より効果的、合理的な解決法も提案した。</p>
審査委員	(主査) 教授 シェイファー・エドワード	
	准教授 ナガトモ・ダイアン	
	教授 杉 田 孝 夫	
	教授 佐々木 泰 子	
	コロンビア大学ティーチャーズカレッジ日本校 ディレクター ウイリアム・スナイダー	